

平成26年3月期 決算説明会資料

株式会社ユビキタス

代表取締役社長 佐野 勝大

© 2014 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Ubiquitous

Agenda

- 平成26年 3 月期業績の概要
 - 経営成績、財政状況
- 中期経営計画

業績の概要

平成26年3月期総括

(単位：百万円)

	期首発表 (H25.5.14)	修正予測 (H26.2.12)	結果
売上高	930	720	764
営業利益	△80	△500	△441
純利益	△80	△602	△549

- (+) ネットワーク関連の大型案件で前払ロイヤルティ獲得
- (+) 村田製作所、ルネサスエレクトロニクスと車載分野での3社協業発表
- (+) IoTクラウドプラットフォーム事業化実現

- (-) 市場・顧客セグメント変更による収益化の長期化(特にネットワーク分野)
- (-) 新規分野(車載、IoT)への展開に伴う研究・開発期間の長期化
- (-) 固定資産減損による特別損失発生(1億円)

成長に向けた課題と対策

課題

- － 収支：想定以上の事業環境変化のため、市場・顧客セグメントの変更が影響
- － 新規事業：戦略変更で先行投資期間見直し
- － 組織運営：事業環境変化に組織体制整備が追いつかず

対策

・成長市場への注力と強みを生かした展開

- － 注力市場：自動車、スマートライフ/スマートエネルギー
- － 当社強み：組込みネットワーク技術とクラウド技術融合
- － 販売施策：当社強みを注力市場に展開可能な企業とのパートナーシップ強化

・組織改編による意思決定の迅速化と効率的な開発体制の確立

- － 事業部制の導入による事業採算性の明確化
- － 研究開発体制の強化、企画・開発部門集約による製品開発加速

・業務提携強化による事業拡大・加速

- － 村田製作所との協業範囲拡大、半導体、モジュールベンダーとのアライアンス加速
- － 自社技術を補完、連携する事業提携の加速

平成26年3月期業績の概要

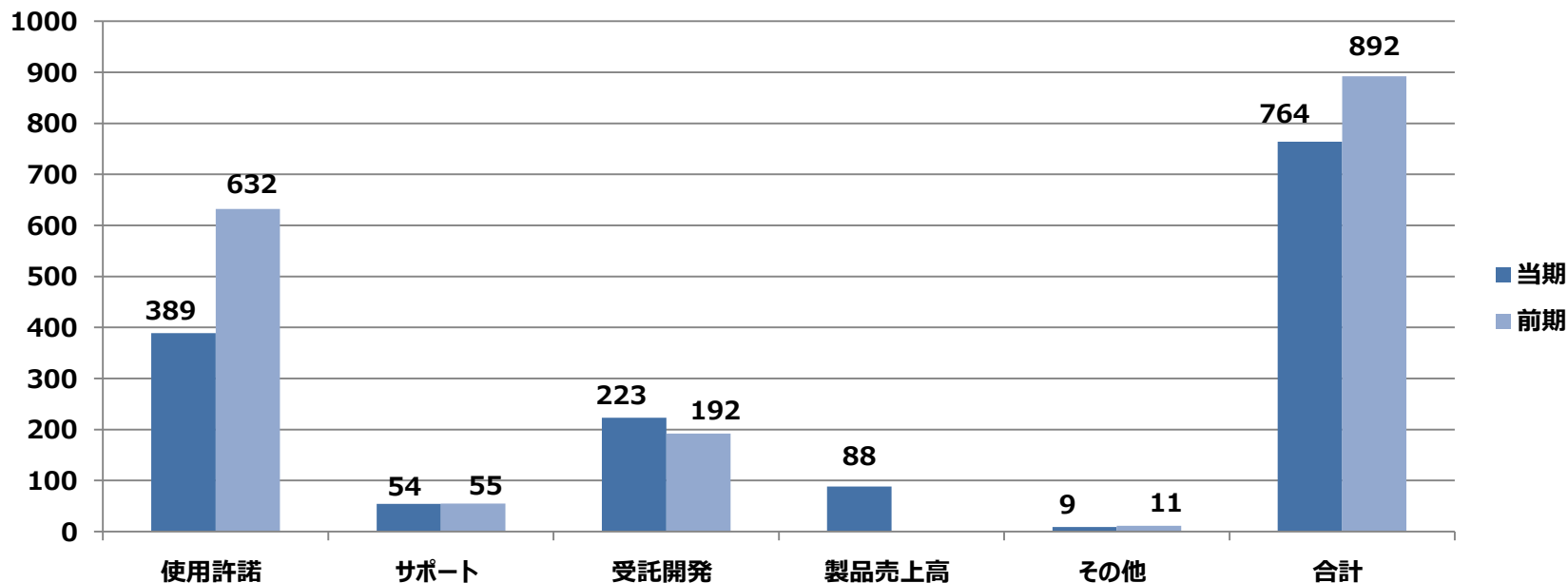
	前年同期 (百万円)	H26年3月期 実績 (百万円)	前年同期比
売上高	892	764	△ 14.3%
営業利益	△52	△441	—
経常利益	△43	△439	—
純利益	△97	△549	—
一株純利益 (円)	△11.34	△61.81	—

平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式数1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。
上記一株純利益は、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

通期業績予想に対する進捗

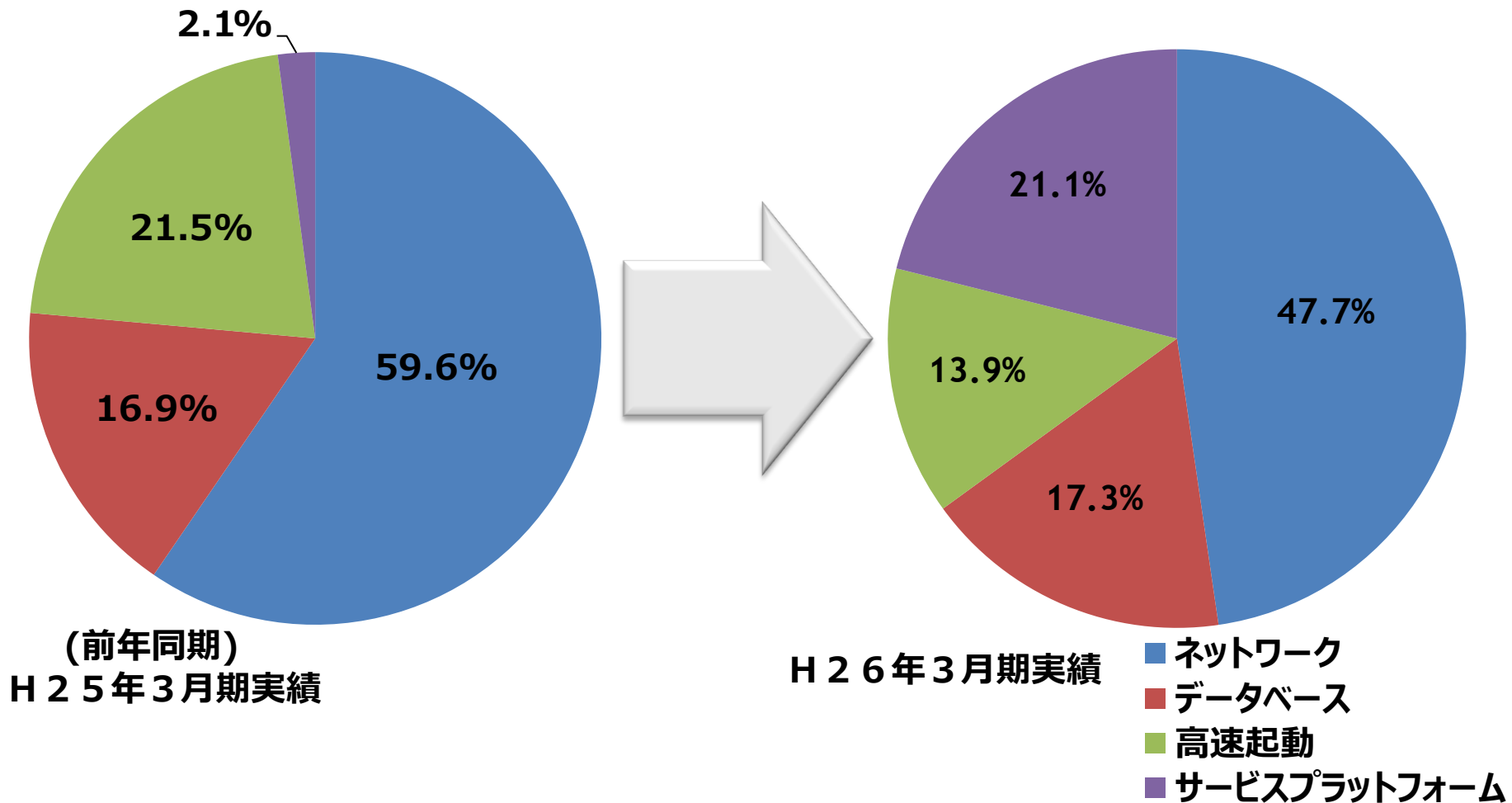
	当期実績 (百万円)	修正当期業績 予想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	764	720	106.1
営業利益	△441	△500	—
経常利益	△439	△500	—
四半期 純利益	△549	△602	—

形態別売上高の内訳（前年同期比）



	当期	構成比 (%)	前期	構成比 (%)	増減額
使用許諾	389	50.9	632	70.9	△243
サポート	54	7.1	55	6.2	0
受託開発	223	29.2	192	21.6	30
製品売上高	88	11.6	—	—	88
その他	9	1.2	11	1.3	△2
合計	764	100	892	100	△127

売上製品構成の変化



貸借対照表（資産の部）

（百万円未満切捨）

	平成26年3月31日 （当期末）	平成25年3月31日 （前期末）	増減額
流動資産	1,221	1,536	△315
現金及び預金	837	767	70
売掛金	138	242	△103
その他	244	526	△282
固定資産	594	744	△149
資産合計	1,815	2,280	△465

貸借対照表（負債・純資産の部）

（百万円未満切捨）

	平成26年3月31日 （当期末）	平成25年3月31日 （前期末）	増減額
負債合計	109	114	△4
流動負債	74	81	△6
固定負債	35	32	2
純資産合計	1,705	2,166	△461
資本金	609	570	38
資本準備金	579	540	38
利益剰余金	482	1,032	△549
負債純資産合計	1,815	2,280	△465

中期経営計画

中期経営計画

みらいをつなぐ ユビキタス

ユビキタス社会の実現に貢献する
テクノロジープロバイダ

平成29年3月期
1,500(150)
百万円

平成32年
(2020年)までに、
売上高30億、営業
利益率25%以上
の達成

平成28年3月期
1,150(10)
百万円

本格的な収益化と次の成長の
ステップ

平成27年3月期
800(▲350)
百万円

括弧書きは営業利益

着実な収益原資の積上げと次世
代の製品、サービスの充実

事業体制再構築と成長への
足掛かり

新しいイノベーション

次世代コネクティビティ技術

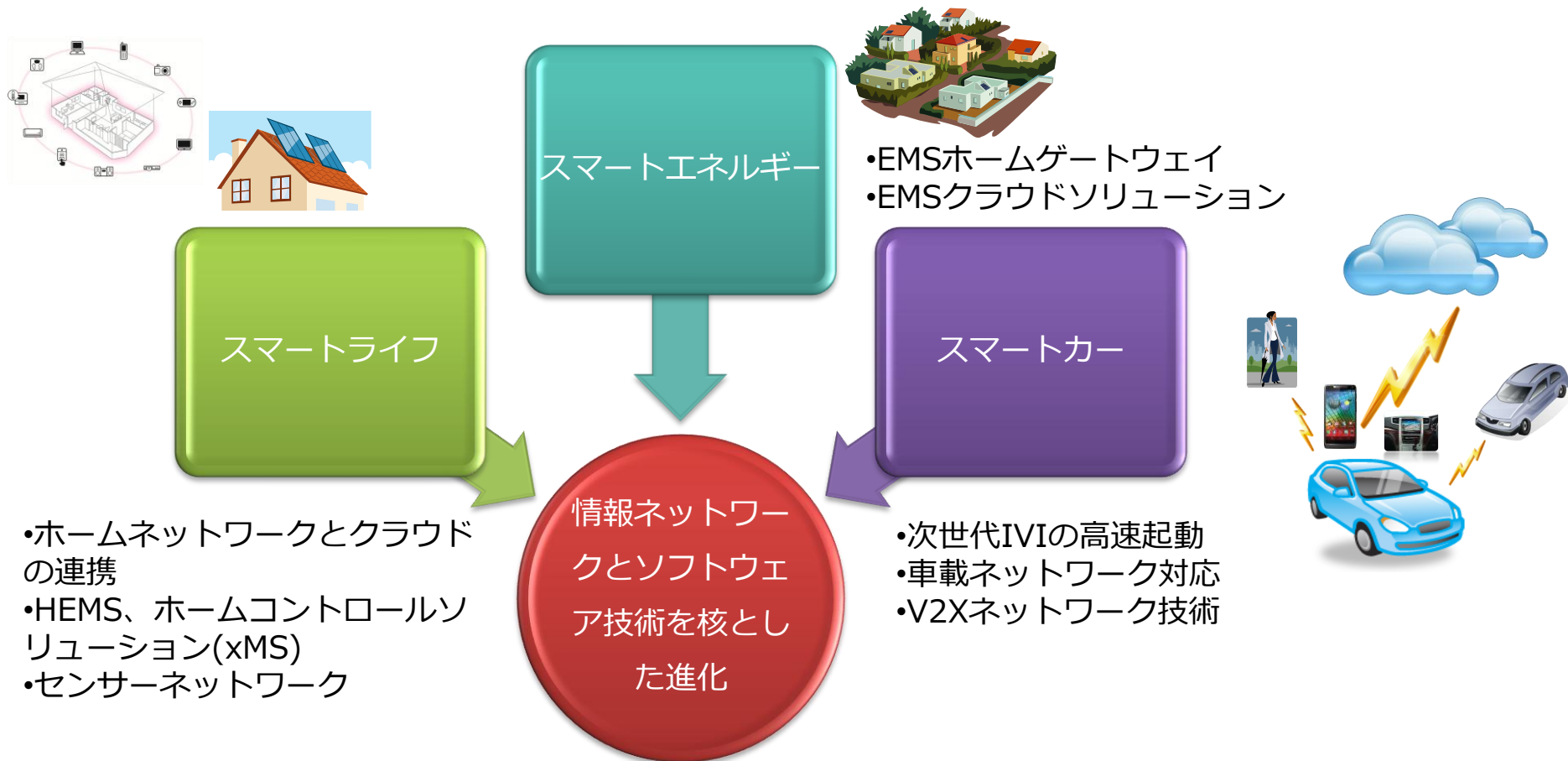
ネットワーク技術とサービス融合

IoTクラウドプラットフォーム

スマートエネルギー/スマートホーム

車載ネットワーク/システムの高速度化

これからのユビキタス -成長市場への投資



卓越した組込ソフトウェア/コネクティビティ技術とクラウドプラットフォームを融合したIoTソリューションによりスマート社会の実現に貢献

事業分野別中期目標

組込みソフトウェア

平成29年3月期 売上高 10.5億円

・成長が見込める自動車/スマートホーム/半導体モジュール(村田製作所協業含む)向け中心への移行と高利益体質への転換

サービス事業

平成29年3月期 売上高 4.5億円

・高い成長率が見込まれる、Internet of Things(モノのインターネット)分野への注力とスマートエネルギーなどの分野特化型ソリューション展開による収益化加速

自動車、スマートライフ/エネルギー
市場に注力

平成29年3月期に売上高15億円/営業利益1.5億円
(営業利益率 10%)超、平成30年度から収益化を加速

ユビキタスのフォーカスエリア

持続可能な社会と、人々の生活の利便性の向上や
楽しみに貢献できる、ユビキタス社会の実現

スマートソリューション

ホーム、エネルギー、自動車、ヘルスケア、

IoTクラウドプラットフォーム : dalchymia
電力見える化サービス : Navi-Ene

AV
機器

映像
機器

車載
機器

スマート
家電

産業
機器

DLNA/DTCP-IP

Miracast/HDCP

ECHONET Lite

Wi-SUN

Wi-Fi Direct

WPA/WPS

PTP/MTP-IP

極小USB Host

TCP/IP, UPnP

HD-PLC

組込SQL DB

QuickBoot

ネットワーク
技術

セキュリティ
技術

データベース
技術

高速起動
技術

「小さく」「軽く」「速い」組込ソフトウェア技術を核とした
半導体、ハードウェアやネットワーク関連技術の
高い知識と技術力

プロダクト
アウト
から

マーケット
イン
へ

組込みネットワーク関連 – 重点取り組み



現 状

- ・車載機器向け案件活発化 – 車載メディアネットワーク関連、Miracast/HDCPなど
- ・デジタルテレビ/レコーダーからの新製品対応開発継続,ロイヤルティ収益は減速
- ・イメージング機器での大型ロイヤルティ案件の獲得
- ・HEMS機器中心にECHONET Lite採用が活発化

重点取り組み

- ・車載機器/スマートエネルギー/ホームネットワーク向けの技術・製品開発を強化
- ・インターネット、クラウド技術と連携した次世代無線/コネクティビティ技術、製品・複合サービスの研究開発と商品化の加速
- ・村田製作所との協業連携による収益拡大と、半導体/モジュールベンダー/代理店などのパートナーシップ強化による拡販強化

データベース関連 – 重点取り組み



現 状

- ・OA、産業機器向けの新規案件の獲得とロイヤルティ収益の安定
- ・既存顧客からのプロシューマ機器、車載機器向けのロイヤルティ収益が継続
- ・デジタルカメラ向けロイヤルティは減少

重 点 取 り 組 み

- ・車載機器、OA、産業機器を中心とした長期安定収益の確保と新規開拓
- ・Internet of Things 機器向けデータ管理ソリューション研究開発

高速起動関連 – 重点取り組み



現 状

- ・株式会社JVCケンウッドのAVナビゲーションシステム“彩速ナビ”主力シリーズに継続搭載、富士通テン“ECLIPSE(イクリプス)”新規採用等、複数プロジェクトでの採用
- ・複数社との間で大・中規模案件の研究開発・商品化に向けた実装を継続
- ・案件採用獲得、商品化までの時間が長期化の傾向

重点取り組み

- ・車載機器分野でのシェア拡大と、車載機器メーカーの自動車メーカー向けOEM純正モデルでの長期継続採用獲得
- ・開発パートナー企業との連携による案件対応規模及び収益拡大
- ・半導体メーカーとの連携による対応SoCの拡大とプラットフォーム展開
- ・グローバル市場への展開

サービス事業の目的

「Internet of Things クラウドプラットフォーム」の提供によりスマート社会へ貢献する



何を実現するのか？

- 身の回りの様々な大量のデバイスの情報を「リアルタイム」に収集、分析、表示
- 様々なサービス、アプリケーションを柔軟に構築可能なプラットフォームの提供
- 組み込みソフトウェア技術との組み合わせによるトータルソリューションの提供

なぜIoTクラウド？

- 移動体通信・ブロードバンドの普及：通信機能が「ヒト」から「モノ」へ
- 大量の様々な種類のデータの集合値から価値を生み出す
- 「モノ」を「ネットワーク」につなげることによる新たな「サービス」の創造

サービス事業のビジネスモデル

サービスプラットフォーム事業

IoTクラウドプラットフォーム“dalchymia”による、利用顧客、パートナーからのサービス利用料、レベニューシェアで収益化

- ・ 特定業種・業態向けソリューション（スマートエナジー向け/HEMSクラウド）
- ・ 事業者・パートナー独自サービス（車載テレメトリー情報、ヘルスケア、・メディカル等、設備・施設管理etc）

サービスシステム構築事業

当社の技術・ノウハウをベースに、サービス提供事業者の要求仕様に基づくOEM提供、SI(システムインテグレーション)によるビジネス展開

サービスデバイス事業

サービスに関わるハードウェアデバイス(HEMS向けスマートプラグ等)の企画、開発と、サービスとのパッケージによる自社製品販売もしくはサービスも含めたOEM提供



device & data management platform
dalchymia

dalchymia - device & data management platform (D2MP)

Internet of Thingsに必要な機能を兼ね備えた、クラウドベースのプラットフォーム



Internet Of Things サービス



ビジュアルインターフェイス

ドラッグ&ドロップだけでデバイスから取得したデータをグラフ上に配置、簡単に可視化できるグラフィカルツール



ビジュアルインターフェイス



サードパーティ提供サービス



Webサービス

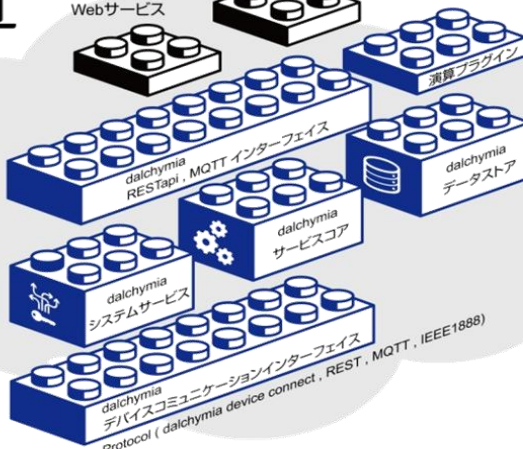


クラウドサービス連携

クラウドサービス連携



外部のビッグデータ解析システム



IEEE1888 Storage

データストア

Service Core (サービスコア) で処理されたデータをストアするためのデータベース

サービスコア

データモデルを構成するdalchymiaの中心(コア)となるコンポーネント

システムサービス

dalchymia上でユーザーやデバイス管理機能

デバイスコミュニケーション インターフェイス

あらゆるデバイスをdalchymiaに接続するためのインターフェイス



Connected Devices

dalchymia (ダルキュミア) = data & device + alchymia

古典ラテン語の"alchymia" (アルキュミア: 錬金術) にデータ (data)、デバイス(device)の頭文字"d"を組み合わせて命名、データやデバイスから新たな価値を生み出す

「HEMSクラウド」ビジネスモデル

ホームコントロール
ポータルサイト

自社ブランドコンシューマ向け
HEMS Cloudサービス

API連携/OEM
/オンプレミス提供



サービス拡張

サービス横展開



- ・電力見える化
- ・節電アドバイス
- ・簡易見守り
- ・簡易セキュリティ
- ・遠隔監視
- ・遠隔操作
- ・地域お得情報配信
- ・Webサービスとの連携



自社ブランドHEMS機器販売



B2B/ SO-HO向け
ソリューション

HW展開

OEMサービス用

HWをOEM/カスタム提供

サービス関連 – 重点取り組み



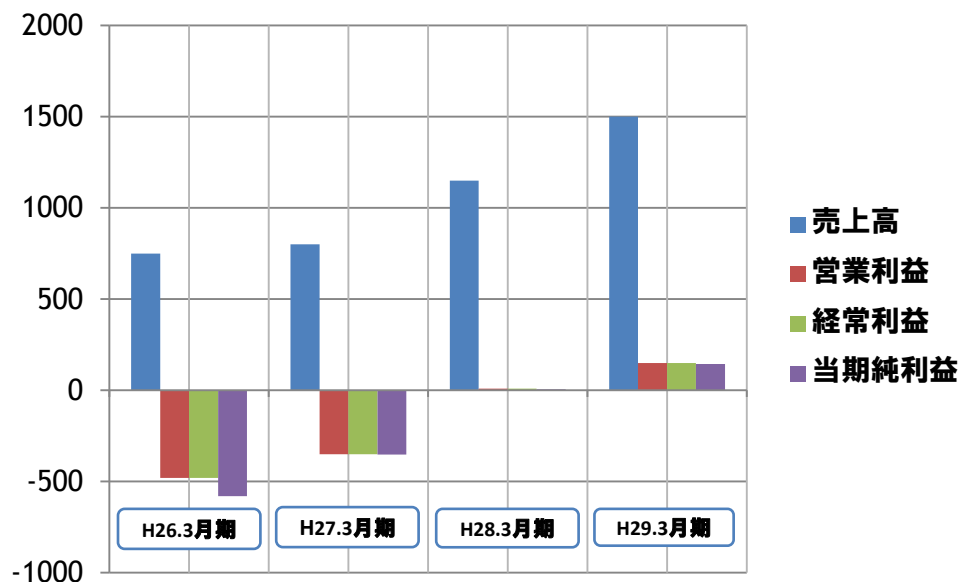
現 状

- ・「Navi-Ene」サービス普及促進
- HEMS補助金での拡販
- ・HEMS関連大型特機案件受注、納品
- ・IoT クラウドプラットフォーム“dalchymia”リリース
- ・車載テレメトリ
- 情報リアルタイム収集クラウドシステム
など採用開始

重 点 取 り 組 み

- ・“dalchymia”拡販注力、パートナー連携による
拡販展開と特化型ソリューション展開
(車載、スマートライフ、ヘルスケアetc)
- ・センサーデバイス+IoTプラットフォーム
ソリューション展開
- ・クラウドHEMS「Navi-Ene」OEM 展開
(サービス+HW)
- ・クラウドHEMSの発展展開
- クラウド連携ホームコントロールポータル

数値目標 – 利益計画



- ・サービス事業の収益率の改善
- ・注力市場顧客からのロイヤルティ収益拡大
- ・中期成長に向けた開発投資継続



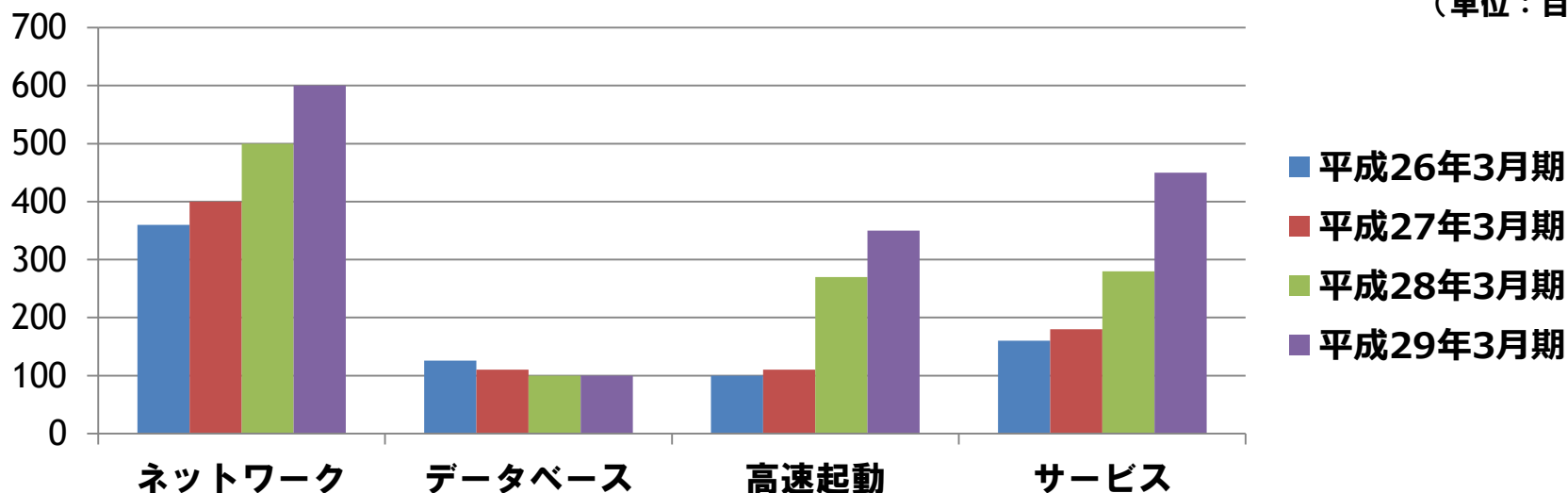
**H28.3月期に収支均衡
H29.3月期から収益化を加速**

	H26.3月期 実績	H27.3月期 予測	H28.3月期 目標	H29.3月期 目標
売上高	764	800	1,150	1,500
営業利益	△441	△350	10	150
経常利益	△439	△350	10	150
当期純利益	△549	△353	5	145

(単位: 百万円)

数値目標 – 分野別売上高内訳

(単位：百万円)



	H26.3月期 実績	H27.3月期 計画	H28.3月期 目標	H29.3月期 目標
ネットワーク関連	364	400	500	600
データベース関連	132	110	100	100
高速起動関連	106	110	270	350
組込み 小計	602	620	870	1,050
サービス	161	180	280	450
合計	764	800	1,150	1,500

質疑応答概要

【Q1】

中期計画について、売上・利益の各年度の予測値（目標値）の伸び率が異なるのは、どういう考え方に基づくものか？

【A1】

今期（H27.3月期）予測は、コスト削減効果により売上伸び以上の損失縮小を計画しています。

次に、当社のビジネスは、まず、利益率の低い開発キットの販売・受託開発の後に、お客様の製品が出荷され利益率の高い量産ロイヤルティを獲得することで、収益を上げるビジネスモデルですが、H27.3月期（予測）⇒H28.3月期（目標）では、これまでに採用された、いくつかの顧客の車載機器案件のQuickBootやネットワーク関連などの量産ロイヤルティが伸長し収益貢献を本格化すると見ており、また新事業であるdalchymiaのユーザー数が伸びることにより従量課金の利用料収入等が収益に一定の貢献をすると見ており、全体では売上伸びと同程度の利益が改善する展開を想定しております。

H28.3月期（目標）⇒H29.3月期（目標）では、一部技術の陳腐化による収益サイクルの成長鈍化も予測されるため、以降の収益拡大に向けた新製品・サービスへ開発投資を積極的に実施するため、一定規模の売上を確保するものの、利益はいったん減速する展開を想定しております。

【Q2】

高速起動の売上の計画が、1年前の中期計画に比べて小さいのは、市場の動向が変わったのか、それとも、当社の目指しているものと顧客のニーズがマッチしていないのか？

【A2】

高速起動の売上は主にカーナビ等の車載機器メーカーからの売上を想定していますが、従来、車載機器メーカー様は、カーナビとしては地図をリアルタイムに高速に正確に表示させることを主たる機能として位置づけておられましたが、近時は、スマートフォンとの連携であったり、車のネットワーク化というトレンドが生じており、こういった車載機器メーカー様やカーメーカー様にとっても、未知の世界においては、要求仕様の決定に時間を要するようになり、従来と比較して想定以上に製品が市場に出るまでの時間が長期化しております。

つまり、市場の動向が変わったのではなく、また、高速起動が顧客のニーズにマッチしなくなったわけでもなく、上記のように、車載機器の製品化までの時間が長期化したため、1年前の中期計画が1～2年遅れて実現すると想定しております。



Ubiquitous

株式会社ユビキタス Ubiquitous Corporation

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル 20F TEL:03-5908-3451 FAX:03-5908-3452